

2019年4月1日発行

プレスリリース

TOKYO MX
東京メトロポリタンテレビジョン株式会社

報道関係各位

2019年度 入社式挨拶

東京メトロポリタンテレビジョン株式会社（TOKYO MX）では、

7名（男性5名・女性2名）の新卒社員が入社しました。

本日の「2019年度入社式」で

後藤会長、伊達社長が新入社員に向けて

それぞれ次のように挨拶しました。

本件に関するお問い合わせ
TOKYO MX 総務局総務部
Tel. 03-5213-1912

2019年度入社式 会長・社長挨拶

【挨拶】後藤 亘 代表取締役会長

皆さんの人生の新しいスタートにあたりまして、先輩として、お話を申し上げたいと思います。人間としての生き方や、社員、社会人としての生き方について、私の考え方を述べます。

まず、若い皆さんがこれから生きていくにあたって、自分なりに自分の夢や志を自分の心の中で、どう考えるかということが非常に大事だと思います。自分が志した思いを達成するために、2年、3年、5年、10年という単位で、自分との戦いに取り組んでほしいと思います。

実現のために必要なことは、ポジティブであるということ。人間は自分の思う通りにならないと、自分が嫌になって自己嫌悪に陥り、ネガティブな発想になる。そんなときに、そこから脱出する方法としては、そのネガティブをどうやってポジティブに変えるかということ。社会人として成長していくためには、ポジティブ発想でなければ、未来を見通すことが出来ないし、自分自身もダメにしてしまう。ぜひ、ポジティブになれるように志してほしいと思います。

我々も一緒にこれから挑戦を続けていきたいと思っていますが、テレビ業界はインターネットの難しい時代に入ってきています。しかし、難しくダメになるわけではありません。このテレビ業界の悪い習癖を挙げるとすると、この業界はあまりにも広告費の定規だけで物の価値を判断している風潮があります。テレビが何を放送するかというコンテンツの価値の方が、これからインターネットの世界と戦っていくためには大事で、視聴率や広告料が変化しても、放送メディアの価値を失うことにはつながりません。

昔は映画全盛期でした。しかし、テレビが出ることによって、もう映画はダメになると日本中大騒ぎになった時代もあります。しかし、ご覧の通り、映画は今も残っていて、名作も次から次へと生み出されています。テレビもこれから皆さんと力を合わせて、MXとしてどのようなコンテンツをどう開発していくか考えていかなければなりません。民間放送なので、いいものを作るためには営業活動がなくてはならない。しかし、いいものを作れば必ず先があります。テレビの世界は、決してあきらめる必要はないし、インターネットがテレビ業界にどう変化を与えるかという、新しい時代のきっかけだと思います。

これからは、テレビマンとして、また放送人、すなわちジャーナリズムの精神を皆さんの心の中に深く秘めて、コンテンツへの関心を高めていって、どういうものを作るか、どういう精神を持つかが大事になると考えています。

最後に、理想の夢を実現するために、私はある人からヒントを得たことがあります。いかに多くの人とのネットワークを作っていくかが、その人の財産になるということです。色んな人との付き合いが自分の力になっていき、自分の将来の夢の実現への糧となりますので、これから、人と人とのネットワークづくりに努めてください。

【挨拶】伊達 寛 代表取締役社長

ようこそ TOKYO MX へ。

今日はあと 1 時間後には、新しい元号が発表されるということで、非常に時代を画するときに入社していただきました。本当におめでとうございます。

TOKYO MX は、平成 7 年に開局しました。平成 7 年は、まさに、Windows 95 が発売された年で、インターネット元年と呼ばれる年に MX は誕生しました。その後、アナログからデジタルに変化し、飛躍的に成長しました。そして、今年はまさに、放送とインターネットがシンクロする元年と呼ぶにふさわしい年になると思います。私たちはいち早くこの時代を予測し、3 年前からスマートフォンで番組が見られる「エムキャス」をスタートさせ、スマートフォンで海外に物を売る「越境 EC」をスタートさせました。

今年からの MX の局キャンペーンとして、「つなげるテレビ。」を若い人を中心に考え、決定しました。このコンセプトを元にイベントや、番組、エムキャスなど、色んな手法を使って、広げていきたいと考えています。「つなげるテレビ。」は、もっと東京の人と深いコミュニケーションを放送とネットを駆使して図っていこうとする決意表明です。

1 回目の「つなげるテレビ。」の関連イベントを、先月 31 日（日）に後樂園で開催しました。このイベント「TOKYO MX FES.2019」には、6 グループが出演しましたが、そのうち、真田佑馬さんと阿部顕嵐さんのステージには、1000 人に対し、2 万 5000 人の応募がありました。そこで、「エムキャス」を使うことで全国数万人の人と一体感を持ったイベントを開催することが出来ました。イベント後には、当社のキャラクターの「ゆめらいおん」がスーパースターになっていて、皆さんが「ゆめらいおん」と写真を撮って、インスタグラムにアップしていました。こうやって、放送以外でも、色んな形でつながっていけることを実証したイベントでした。

そして、今日からは当社の看板番組である「5 時に夢中！」が「エムキャス」によって全国で見られるようになります。テレビだけですと、東京近郊でしか見られませんが、「エムキャス」というインターネットの機能を使うことで、我々の作ったコンテンツを全国でご覧いただくことが出来るようになりました。これにより、全国の人とつながっていけると思っています。

MX は東京のテレビ局ですが、スマートフォンで全国の人とつながることが出来ますし、「越境 EC」を使うことで日本と世界を結んで物を動かすことも可能になってきます。

ぜひ皆さんには、夢を大きく持っていただきたいと思います。「未来を予測する最善の方法は、自ら未来を開拓することだ」という言葉がありますが、若いエネルギーで我々と一緒に未来を開拓していきましょう。

以上